

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	三重県
-------	-----

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="radio"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="radio"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="radio"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
三重県	特別支援学校	聴覚障がい	みえけんりつろうがっこう 三重県立聾学校
三重県	高等学校	定時制	みえけんりつゆめがくえんこうとうがっこう 三重県立みえ夢学園高等学校

2 研究課題

障がいのある生徒の自立と社会参加に向けて、キャリア教育や職業教育の充実を図るとともに、校種間や関係機関との連携、外部人材の活用などによる効果的な就労支援体制について研究する。

3 研究の概要

本事業では、特別支援学校において、職場実習の受入事業所開拓を拡充するとともに、高等学校において、特別支援学校の就職支援の仕組みやノウハウを活用した就職支援を推進することで、生徒の進路実現を図ることを目的に取り組んだ。

(1) 特別支援学校における就労支援

特別支援学校においては、早期からの職場実習を実施し、生徒の可能性や強みを事業所に提示する提案型の職場開拓により、職場実習の受入先を確保することで生徒の進路実現を図る体制づくりを行った。

(2) 高等学校における就労支援

高等学校においては、特別支援学校の就労支援のノウハウなどを取り入れた就職支援や関係機関と連携した就職支援を推進するとともに、外部人材を活用した効果的な就職支援の在り方について研究を行った。

(3) 特別支援学校高等部と高等学校の連携

特別支援学校及び高等学校の外部人材と教職員が一体となった就職支援の連携体制づくりを行った。

4 研究の成果

(1) 特別支援学校における就労支援

特別支援学校では、本事業にて任用した外部人材を活用し、生徒の実態を考慮した職場開拓を進めた結果、生徒の適性に沿った職種や業務の把握、必要な支援の方法の企業への提案によって、新たな職場開拓につながった。

(2) 高等学校における就労支援

高等学校では、本事業において任用した外部人材を活用し、職場実習を導入した進路指導や、きめ細やかなキャリアカウンセリング、関係機関と連携した就職支援などを行うことで、生徒の適性や障がい特性を踏まえた就職支援を行うことができた。

また、特別な支援が必要な生徒の就職支援の在り方について、教職員の理解を図ることができた。

(3) 特別支援学校高等部と高等学校の連携

特別支援学校及び高等学校の教職員並びに関係機関や県教育委員会事務局の担当者などが、特別な支援が必要な生徒の就職支援について情報を共有するとともに、個々の生徒の支援の在り方について検討することで、校種の枠を超えた支援体制や専門機関と連携した支援体制の基盤を構築することができた。

5 課題と今後の方策

(1) 特別支援学校における就労支援

特別支援学校では、生徒の進路希望の実現のため、企業のニーズに応じた職業教育の充実とともに、引き続き、生徒本人の適性に合った職場開拓が必要である。そのため、今後も外部人材を配置し、丁寧な職場訪問を行うとともに、生徒の適した職種・業務と必要な支援の方法を企業に提案する形の職場開拓が必要である。

(2) 高等学校における就労支援

高等学校においては、生徒及び保護者の障がい受容が難しい状況があり、障がい者手帳の取得や専門的な支援機関の活用が進まない状況がある。今後も、学校と関係機関が一体となって早期からの支援を行う体制を整えるとともに、キャリアカウンセリングや職場実習などをおして、生徒に自己の職業適性についての理解を促す必要がある。

また、保護者に対しては、子供の障がい特性についての理解を図るとともに、将来を見通した活動ができるよう支援する必要がある。

(3) 特別支援学校高等部と高等学校の連携

県内の高等学校の中には、特別な支援が必要な生徒の就職支援についてのノウハウや情報が不足している学校がある。今後も特別支援学校のセンター的機能の活用や専門機関と連携した就職支援、専門的な知識と経験を有する外部人材の活用などを充実し、県全体で生徒の進路実現を推進していきたい。

※三重県では「障害」を「障がい」と表記